令和７年度　第２号　（通刊165号）

発行　令和７年１０月２８日
(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤの付着軽減のため、施設を沈めすぎないようにしましょう

1　10月のラーバ出現状況

付着生物ラーバ調査は図1の地点で10～3月まで月4回実施します（川内のみ月2回）。ラーバ等出現数は表1、出現数の推移は図2～4のとおりです。

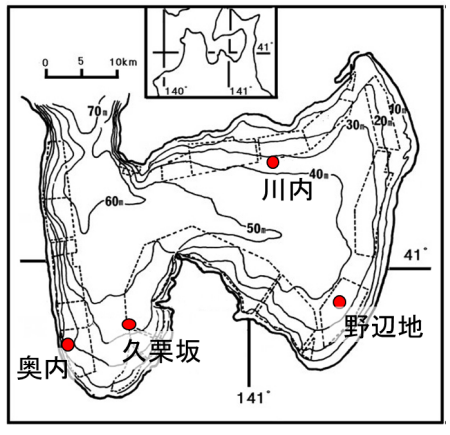

図1　付着生物ラーバの調査地点

（１）ユウレイボヤラーバ（通称：ハナ）

4地点とも1.0個体/m³未満で少ない状況です（表1、図2）。

（２）サンカクフジツボラーバ（通称：アカガキ）

9月の調査で今年の出現・付着は終了したと思われましたが、奥内で6.7～13.3個体/m³、久栗坂で14.4個体/m³、野辺地で1.6～3.1個体/m³見られました（表1、図3）。

（３）ムラサキイガイラーバ（通称：カラスガイ、シュリ、マルゴ）

奥内で3.3～6.7個/m³、久栗坂で1.1～5.6個体/m³、野辺地で0.8個/m³と、少ない状況です（表1、図4）。

（４）マボヤラーバ

奥内で2.5個/m³、久栗坂で1.1個/m³見られました（表1、図5）。

表1　令和7年10月のラーバ等出現数　　単位：個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サンカクフジツボ	ムラサキイガイ	マボヤ ラーバ	マボヤ 卵
奥内沖	10月 8日	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0
	10月14日	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0
	10月22日	0.0	13.3	5.8	2.5	0.0
久栗坂沖	10月 7日	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0
	10月15日	0.6	0.0	1.1	1.1	0.0
	10月22日	0.6	14.4	0.0	1.1	0.0
野辺地沖	10月 6日	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0
	10月14日	0.8	1.6	0.0	0.0	0.0
	10月20日	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0
川内沖	10月15日	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

2　今後の見込み

（１）ユウレイボヤ

水温が20℃を下回り始めたので、今後、ラーバの出現数と付着数が増加すると思われます。ホヤ類のラーバは光を嫌う性質があり、**深いところで多く付着するため、施設を沈めすぎないように**しましょう。

（２）サンカクフジツボ

例年出現のピークとなる7、8月にラーバの出現が少なかったことから、今秋の稚貝分散作業や来春の耳吊り作業へのサンカクフジツボによる影響は少ないと考えられましたが、再度まとまった出現がみられました。**今後の出現状況次第では作業に影響が生じる可能性**があります。

（３）ムラサキイガイ

4～6月に**ラーバの出現が多かった**ことから、今秋の**稚貝分散作業の効率が低下**すると思われます。なお、**秋から冬にかけてラーバ出現数が増加**する可能性がありますが、**分散や入替作業後の養殖篭への秋から冬生まれのラーバの付着は少ない**ことが分かっています。

（４）マボヤ

卵やラーバが本格的に出現するのは、水温が10～15℃になる頃です。マボヤを天然採苗したい漁業者は採苗器の準備を進めてください。

発行元：地方独立行政法人
青森県産業技術センター　水産総合研究所
住　所：青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10
TEL：017-755-2155　FAX：017-755-2156

水産総合研究所ホームページURL：https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/sui_sougou/
海ナビ@あおもり 全モバイル端末共用QRコード